

平成24年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	大学教員養成課程における小学校社会科学習のカリキュラムとテキスト開発
------	------------------------------------

研究代表者

氏名 椿 真智子	所属 人文科学講座地理学分野	職名 教授
-------------	-------------------	----------

研究分担者

氏名 大石 学 田中 比呂志	所属 人文科学講座歴史学分野 同上	職名 教授 教授
上野 和彦 澤田 康德 長沼 佐枝	人文科学講座地理学分野 同上 同上	特任教授 講師 特任講師
赤間 佑介	人文科学講座法学・政治学分野	講師

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本学の初等教育教員養成課程における必修・小教科目「社会科研究」は、社会選修・専攻以外の学生が将来小学校教員として社会科の授業を行う際に、習得しておくべき社会科の基礎・基本と技能の習得・養成を目的としている。

現在は、小学校社会科を構成する地理・歴史・公民の3領域を可能な限り網羅すべく、5分野の教員が2名・1組で各クラスを担当している。新カリ移行後は、赤間先生のご尽力のもと、シラバスの共通化やクラス規模の適正化が実現した。しかし授業の中味については依然として各教員の裁量に任されており、本科目の課題や到達点、学習内容、評価等に対する共通認識を明確にすることは容易ではない。また現時点で、当該科目にふさわしいテキストは学内外ともに存在せず、授業改善は各教員の創意工夫や試行錯誤によるところが大きい。

こうした現状をふまえ、小学校教員養成課程において、社会科に対する興味・関心を高め、基礎的能力を養成するための学習プログラム開発を目標とするプロジェクトを2010年度より開始した。3年目にはいった2012年度の活動メンバーは、小学校社会科を構成する地理：上野・椿・澤田・長沼、歴史：大石・田中、公民：赤間の7名である。昨年度の成果をふまえ、各専門の立場から、小学校社会科学習の基礎・基本をふまえた授業で教えるべき内容・技能と課題を整理し、授業で使用することを想定したテキストの目次を作成した。

1. 学習指導要領における学習課題と各専門分野における基礎概念・技能との連関についてそれぞれ整理した。
2. 第1回研究会を2012年8月2日(水)に開催：今期の作業目標・計画・予算執行の検討。
3. 第2回研究会を2012年12月9日に開催：歴史・公民的分野における小学校社会科の基礎概念・視点・内容・課題の検討、大学教職課程「小学校社会」(教科に関する科目)のテキスト構成・目次案の検討。

学習指導要領および教科書内容に関する各専門からの課題や問題点の指摘は、本科目の中味を検討・実践する上で非常に有益であり、異なる専門教員が議論することの意義をあらためて認識できた。また、小学校社会科の内容には複数分野に関わるものもあることから、分野間の連携・調整の必要性についても課題検討を行った。テキスト目次は以下の通り

はじめに

1. 小学校社会科を学ぶ意味
  - (1) 社会科の目標
  - (2) 社会科の内容と構成
  - (3) 社会科の見方・考え方
    - ① 地理的分野
    - ② 歴史的分野
    - ③ 公民的分野
2. 地理的分野の基礎と見方・考え方
  - (1) 国土スケールで学ぶ
  - (2) 都道府県スケールで学ぶ
  - (3) 市町村と身近なスケールで学ぶ
3. 歴史的分野の基礎と見方・考え方
4. 公民的分野の基礎と見方・考え方
5. 新しい社会科像にむけて
4. 今期の研究・作業内容をまとめた報告書を作成・発行した。

### 研究成果発表方法

[発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。]

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。  
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

2013年3月に報告書「2011年度重点研究 大学教員養成課程における小学校社会科学習のカリキュラムとテキスト開発」を発行。

8月24日に開催される日本地理教育学会大会（於：佐賀大）にて発表予定。

3年間の成果をふまえ、テキスト執筆にむけ作業を継続する。